

The background of the cover is a photograph. In the foreground, there are several thin, brown branches of a cherry blossom tree, covered in small, dark red buds. These branches are out of focus. In the background, there is a traditional Japanese building with a light-colored, horizontally-slatted wall and a dark, tiled roof. The building is also out of focus. The overall scene is a soft-focus view of a traditional Japanese setting in spring.

上京

史蹟と文化

2008 VOL. **34**

美を創る

油絵は額縁に入れて飾られるが、日本画の場合は襖・屏風・掛軸等、表装することによって初めて鑑賞されるものとなる。中でも掛軸は本紙（書画の部分）にも劣らない芸術的な表装を必要としてきた。それは屏風や襖が



表具用古代裂製作

廣瀬賢治

上京区新町寺之内上ル丁目東入島中町

縁にのみ裂（織物）を用いるのに対して、掛軸の場合は一文字・中廻し・上下（天地）・風帯など何種類もの裂を貼り合わせることによって本紙を引き立たせるとともに、巻いても傷まないという補強の役目を果たしている。そのためには高い品格をもつ表具用裂地が欠かせないのだという。

その裂地は金襴をはじめ錦・綾・羅・紗・緞子など多くの種類があつて、昔から西陣の高度な技術によって織られてきている。しかも古代から織られてきた裂の復元さえも必要となってくるのである。そのためには書画の内容や時代を考慮しながら、現存する古代裂の文様、織り組織、発色などの綿密な調査によって絹糸の太さや金糸金箔の色などを慎重に検討した上で、伝統的な技術をもって手織機で製織しなければならぬ。

廣瀬賢治氏は父敏雄氏からの技を受け継いで昭和

四十一年から古代裂復元製作に励んでこられた。昨年九月には、文化財保護法に基づく有形・無形の文化財の保存に必要な修理などの技術を文部科学大臣が選定し、技術の保持者や保存団体を認定する「選定保存技術」の「表具用古代裂（金欄等）製作」の保持者として先代に続いて認定された。

廣瀬氏は平安時代の仏画の最高傑作の一つとされる国宝「山越阿弥陀図」の表装の復元を手がけられたことから、その見識と技術を認められ、最近では国宝「彦根屏風」の表具裂の製作にも携わるなど、この業界の第一人者であり、その作品の表具裂は文化財修理の関係者から高い評価を得ている。

文化財の修理に当たっている装演師（表具師）からは、それぞれの技に合う製品を



求める特別注文が寄せられる。廣瀬氏はこれら注文者の希望のすべてをよくわきまえた上で、図案や糸の種類、色などを選ぶことができるだけの高度な熟練技術と豊富な知識を有する貴重な織師であり、常にその研究を怠ることなく日々研鑽に努められている。

なお、廣瀬氏は上京区体育振興会連合会の会長として、上京区民の体育振興にも大いに寄与しておられる。



小川の流が消えてからすでに四十五年、今ではここに川があったことも忘れ去られようとしています。もともと鴨川の分流の一つですが、時代によってその取水口も変わってきました。川の名に由来する小川通も今では「おがわ」と読まれています。が、江戸時代の「洛中洛外図屏風」や地誌には「こかは」と書かれています。すでに水が流れなくなっていた小川は、昭和三十八年に埋め立てられ、その役目を終えました。それでも、ところどころに石橋や川の跡が残っており、細長い空地をたどれば、その痕跡を知ることができます。

江戸時代の地誌『京町鑑』に、「小川通 上賀茂本社^{きょうまちかん}の西に水源有。鴨川を南へ流れ、大宮通の東へ一町計^{ぼかり}南へ通じて妙覚寺の構の北にいたり、本法寺の門前



上京の史蹟 その16

小川通

に出て上立売の南へ落る流れを小川と云。此所の西側人家の下を流れ、一条に至て西にながれ堀川に入也。」(原文のまま)とあって、水源を上賀茂に発しており、『名所都鳥』には「又小川の水上也今宮御旅所の北東に西南にながる、川を二股川^{ふたまた}と名づ

く。それより百々の橋の下を通り、小川通の西側の人家の下を音しづかながれきて一条より此堀川へ落つ。」と上流を二股川と呼び、人家の下を暗渠となつて静かに流れていた有様が語られています。

廃川になる前の小川は、今の

紫明通を堀川へ流れていた疏水分線から取水していて、それが暗渠化されたあと水が流れなくなったようです。疏水分線からの取水口は、堀川紫明下ル東側の後花園天皇火葬塚の北あたりで、小川は大応寺と扇町児童公園の東端を南流していました。上御霊前通には扇橋が架かっており、当時、扇図子と呼ばれていました。ここからは小川通の西側を流れます。



上御霊前通を越えると西側に本法寺、東側に裏千家と表千家が向かい合います。本法寺の前には古い石橋があります。その両側が凹地になり、今は低木が植わっていますが、ここが小川の跡なのです。幅八メートル、深さ五〇センチほどの川跡は両岸に石組が残り、わずかながら小川の長い歴史を伝えてくれています。



本法寺石橋

本法寺は室町時代の永享年間（一二四二―一二四一）に日親によって創建されたと伝えられています。京都府指定有形文化財となっている本堂・開山堂・多宝塔・仁王門などの建造物が日蓮宗本山の伽藍景観をよく伝えており、書院の三巴の庭は本阿弥光悦の豪放な作で、国の指定名勝となっています。日親は不受不施（法華經の信者以外には布施を受けず施さぬ主義で、室町幕府に禁圧される）を



本法寺開山堂

営により現在地に移されました。天明八年（一七八八）の大火後に再建されたのが今の堂宇です。なお、本阿弥家は刀剣の鑑定や手入れを業とした家で、本光の曾孫になる光悦（一五五八―一六三七）は書画や工芸に優れた芸術家として有名です。本法寺には本阿弥一族の墓もあり、光悦や長谷川等伯などにかかわる多くの文化財を所蔵しています。

唱えて禅宗を批判した立正治國論を著わしました。このことにより、將軍義教の怒りに触れて投獄された上に焼鍋をかぶらされたが、不屈の精神を称えられて鍋冠り日親といわれました。やがて嘉吉の乱（一二四二）で義教が殺されたあと獄中で知り合った本阿弥本光の力を得て本法寺を再興します。その後、天文法華の乱で避難していた堺から一条堀川に再建しますが、豊臣秀吉の聚楽第造



表千家と裏千家が通りの東側に表門を構えています。このあたりは和服姿の男性も女性も見られ、いかにも茶道の町という感じがします。

表千家は千利休（一二二―一二九二）の子の少庵が千家再興を許され、利休の遺席であった不審庵を移しました。天明の大火に罹災後、露地や茶室が整備されますが、明治三十九

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本 社 京都市中京区烏丸通三条下る ☎075(221)-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

公益社北ブライツホール(堀川黎明)	京都市北区黎明通堀川東入 ☎ 075(414)0420
公益社中央ブライツホール(五条大和大路)	京都市東山区五条通大和大路 ☎ 075(551)5555
公益社南ブライツホール(堀川八条)	京都市南区堀川通八条下る西側 ☎ 075(662)0042
公益社西ブライツホール(五条西大路)	京都市右京区五条通西大路西入南側 ☎ 075(322)0042
公益社宇治ブライツホール(宇治横島)	宇治市横島町(文教大学前) ☎ 0774(20)0042
公益社滋賀ブライツホール(大津)	大津市朝日が丘1丁目 ☎ 075(523)0042



裏千家



表千家

寺之内通に架かっていた百々橋の石材が残る宝鏡寺裏手の小さな公園は小川の跡で、小川は



年の火災に遭います。四畳半茶室の点雪堂と利休の祀堂からなる祖堂は寛政六年（一七八六）に建てられていて重要文化財となっています。歴代宗左家元の好みで造り上げられた国指定名勝の庭園は、深山幽谷の趣きを感じさせます。

裏千家は表千家の北にあつて、千少庵の子の宗旦が隠居所として北裏に今日庵を建てたのに始まります。一間腕木門の表門を入ると、国の名勝となつている庭園が広がっています。その奥には裏千家住宅として重要文化財に指定されている一群の建物があり、一畳台目の今日庵、四畳半の又隠、棟札に天明八年とある寒雲亭など歴代宗室家元の好みをよくあらわしています。

そのまま民家の裏手を流れていました。ここは射場町と呼ばれ、『京町鑑』には「此町、古へ笠懸の騎射ありし所とぞ。俗にいんばの町と云。是古、犬馬場といひし所也。又報恩寺町とも云。」とあつて、その由来を伝えています。

射場町の中程に小川の石橋を残す報恩寺があります。この橋には慶長七年（一六〇二）架橋の銘があり、幕末の鉄製の擬宝珠にはその当時栄えた西陣の商人の名が見られます。

報恩寺は鳴虎の寺として知られます。それは豊臣秀吉が中国の画人四明陶伯が



報恩寺石橋

イメージ写真

歓送迎会・親睦会に最適な
パーティープラン

紅梅 KOUBAI PLAN **¥8,500**
こうばいプラン (お1人様料金/税・サ込)

お料理: 洋食/和食/和洋折衷料理
お飲物: ビール、ワインなど9種類の中からお好みで6種類

※お料理はご選択ください。※ご利用は2時間30分です。
※当日宿泊ご優待など各種特典をご用意しております。
※その他にも¥11,000/¥7,500のプランがございます。

宴会予約係 TEL:075-223-8484

京都ロイヤルホテル & スパ
地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分



報恩寺梵鐘

描いた虎の絵を所望し、聚楽第の床へ飾ったところ夜中に虎が鳴き出し、秀吉が一晩中眠れなかったために、絵は寺へ戻されたといわれ、このことから鳴虎として有名になりました。

この寺には重要文化財に指定された梵鐘があります。墓地の入り口の小さな鐘撞堂の中にあって外からはよく見えませんが、平安時代後期（十二世紀後半）の作と推定され、奈良時代以来の古式を残す名鐘です。高

価値を認められるまでは勿撞の鐘として知られていました。古くは、西陣ではこの鐘の音を聞いて仕事を始め、終わるという習慣がありました。ある時、お十夜の晩に鐘が鳴るか鳴らぬかで織屋の丁稚と織子が口論をしたところ、この日に限って鳴らなかったの、織子が悔しさのあまり自害したこと、除夜の鐘以外は撞かなくなったという伝説があります。

さ一二三・五センチ、口径七三センチ、素文ですが池の間には金剛界四仏の梵字を籠字であらわし、梵文で陀羅尼真言を細字で刻んでいます。大正三年頃に美術



水落橋旧欄干



さらに南へ行くと上立売通へ出ます。ここに小さな空地があつて水落橋の欄干が残っています。その民家前の片隅に小さな立石があつてよく見ますと「昭和十年六月末 大出水地上四尺」と彫った文字が見えます。水落橋の親柱かと思われませんが、昭和十年六月二十九日、梅雨の豪雨が京阪神を

襲い、京都でも近年にない洪水に見舞われました。この時に小川も溢れ四尺（一二メートル）まで水に浸かったことを後世の戒めとしたのでしよう。

小川はここで東へ折れ曲がり暗渠になります。古くは深い暗渠へ水が落ち込んだので水落の名が生まれ、水落図子ともいわれました。上立売通の南に沿って流れ、小川児童公園のところで南へ折れ再び地上へ出たようです。このあたり

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市ヶ谷甲良町1-8

〒162-0856 TEL (03) 5261-4566

FAX (03) 3235-5677

では小川通の西側に沿って細長い空地が残り、駐車場になっていたり、鉄パイプの欄干が残っていたりします。

今出川通（昔は須磨町通）に架かっていた羅漢橋をくぐった小川は元小川小学校（現小川特別養護老人ホーム・みつば幼稚園）の東側から一条通の南側を西へ流れ、一条戻り橋のところで堀川へ流れ込みました。今の一条通の道幅の南半分位が小川でした。

小川通は一条通以南で細い道

路となり、京都府庁など官庁街の脇を経て中京区へつながります。下

長者町通南東角に「茶屋四郎次郎邸址」の石標が立っています。戦国時代から江戸初期の豪商で、徳川

家康の側近でもあった中島清延（二五四二―一九六）は初代の茶屋四郎次郎を通称とし、代々南海貿易と糸割符制度に係わって巨利を得ました。四代以後も公儀



茶屋四郎次郎邸址

の関東御服所を営み、幕末までここに居宅を設け、茶屋町の名も起こりました。その場所は現在の京都農林水産総合庁舎のあたりにあります。

（出雲路敬直）



菓匠

本家 玉壽軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319

—いつも新しい感動を—

京都御所西、閑静な住宅街に溶け込むシックな外観。
さわやかな水のせせりが聞こえ、
やわらかな自然光がふりそぐアトリウムロビー。
7つの多彩なレストラン&バーで、
ブライトン流のきめ細やかなサービスをお届けします。

〈客室〉183室
〈レストラン&バー〉
●京懐石「鑒（はたる）」 ●鉄板焼「焼（ひもろぎ）」
●フランス料理「ヴィ・ザ・ヴィ」 ●テラスレストラン「フェリエ」
●ラウンジ「クロー・オ・ミディ」 ●中国料理「花蘭（かかん）」
●メインバー「ムーンシャイナー」

京都ブライトンホテル
〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411（代） FAX.075-431-2360
ブライトンホテルズホームページ
<http://www.brightonhotels.co.jp/>

上京の埋蔵文化財

近世後期二条家邸の発掘調査成果——常盤井殿町遺跡——

はじめに

同志社大学歴史資料館では、同志社女子大学（今出川校地内）の体育館建設に伴って発掘調査を実施しました。発掘調査期間は二〇〇七年三月から八月までの約六ヶ月間で、一五〇〇平方メートルという広大な面積を調査しました。遺跡名は常盤井殿町（ときわいどのちょう）遺跡という名前で知られています。当遺跡ではこれまで計四回にわたる発掘調査を行い、近世を主として古墳時代から中世までの幅広い時期の各遺構・遺物を検出しています。（図1）

今回の発掘調査では、十七世紀中頃（江戸中期）から十九世紀中頃（幕末期）までの約二〇〇年

にわたって同志社女子大学の東半部を占める広さの屋敷地をかまえていた二条家邸に関する遺構・遺物を主に検出しました。今回発掘の最大の成果は非常に良好な状態で遺構面を検出したことです。その結果、文献史料などでは知ることのできない、二条家公家屋敷の詳細な時期的変遷をとらえることができました。

公家町と調査地

まず近世期のこの界隈の状況についてみていきます。近世いわゆる江戸時代の大学キャンパス南側（現在の京都御苑）には内裏を中心に数多くの公家が集住するところ（公家町）でした。京都御苑は明治天皇が明治十年（一八七七）



図1 調査地の位置（南から、2000年11月29日撮影） 京都市埋蔵文化財研究所所蔵

に東京へ^{てんと}奠都したのちに、荒廃したこの公家町一帯を整備したもので、昭和二十四年（一九四九）に国民公園として開放されたものです。

調査地はこの公家町界隈の北辺部に位置します。図2『新改内裏之図御紋入』（延宝五年「二六七七」刊）によれば、調査地は五撰家の一つである二条家の屋敷地でした。その後の絵図をみていくと明治初年まで二条家の屋

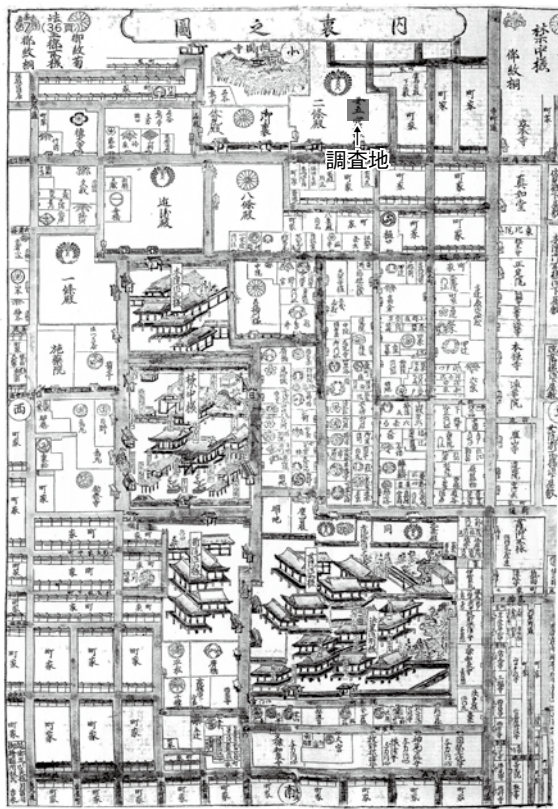


図2 『新改内裏之図 御紋入』（延宝5年〔1677〕）にみる調査地の位置
京都市歴史資料館所蔵

敷地であったことがうかがえます。もともとの二条家邸は先の絵図でいう「禁中様」すなわち内裏のことで、その南に位置する「新院御所様」（後西天皇の譲位後の御所地）にありました。万治四年（一六六二）正月十五日にこの二条家邸から出火し、火災は延焼して内裏を始め多くの公家屋敷を類焼する大火となりました。この大火後に今回発掘した地点に移転してきました。二条家の移転以前は、

別の絵図によれば「御国母様」すなわち二代將軍徳川秀忠の娘和子（東福門院和子）の下屋敷でした。なお図2の絵図に記される「二條殿」とは二条光平のことで、「二條殿」の右に記される「女五宮様」は正室の賀子内親王です。この内親王は徳川和子の娘にあたり、その縁で当地に移転してきたのかもしれない。

二条家について

二条家とは、一条・九条・近衛・鷹司と並び五撰家と称される朝廷内でも格式の高い家柄です。撰家とは、摂政・関白に任ぜられる家のことをいいます。この五つの家によって江戸時代末期まで原則的にはこの要職につくこととなりました。二条家は、鎌倉時代前期に九条道家の二男良実が、二条京極に邸宅をもち二条殿と称したことから家の名がつけました。また室町・江戸時代には將軍家の足利氏・徳川氏の諱を一字もらうなど武家と

も密接な関係をもっており、五撰家のなかでは最も親幕府派でした。幕末期には幕府寄りの政治的姿勢をとったために東京へは他家よりも遅れて移転することとなります。

発掘調査

検出遺構 今回検出した二条家邸の遺構は、大きく上下4層に分かれて検出されました。このことは二条家邸が何度も建て替えや作り替えられたことを示しています。その要因としては火災や賀茂川の洪水による災害であったことが土層の様子からよみとれました。土層観察から二つの火災層とその間に洪水の堆積層を確認しました。上層の火災層は調査地のほぼ全面にわたってみられ、天明八年（一七八八）に起きた大火の痕跡と考えられます。下層の洪水層と火災層については時期の特定には至っていませんが、数多くみられる災害記録の実態を彷彿とさせ

るものです。

ここでは、十七世紀中頃移転時（初期）の遺構と天明の大火後に再建された幕末期の遺構の二点について主に紹介していきます。

初期の遺構面からは、礎石建物・道路跡・倉庫跡・竈跡・井戸・土坑・溝等が見つかりました。（図3）道路跡は調査地南半中央やや西寄りで検出しました。南北方向に幅三メートル程の範囲で砂利が敷き詰められていました。こ



図3 17世紀中頃の二条家邸遺構

の道路の東西両側に近接する形で礎石建物が複数検出されました。

いずれの建物もその規模や性格は不明ですが、東側で見つかった建物は床張りの比較的大きな構造であったことがうかがえます。今回見つかった遺構の屋敷地内における空間的な位置づけについては、公家屋敷の御殿部分では各建物は渡り廊でつながっており、今回見つかったような路面の道は存在しがたく、また竈跡や倉庫跡といった生活関連施設が検出されていること等から、二条家の日常生活を支える空間に相当するものと考えられます。

幕末期では大きな庭園として利用され、厚さ約七センチメートルの漆喰を貼って作られた人工池を中心とする庭園遺構が検出されました。（図4）池跡は南北約二十メートルで細長く、北端には二つの漆喰で作られた集水升が設けられていました。池の水量はこの二つの升によって調節され、北



図4 幕末期の庭園遺構

から南にむかつて流れていたようです。庭園の規模は京内出土の他の出土事例よりも大きく、二条家という家柄をまさしく象徴的に示すものといえ、マスコミ報道でも大きく取り上げられました。

出土遺物 非常に多くの遺物が出土しています。現在整理中のためここではトピックス的に三つの遺物を取りあげます。

二条家家紋瓦（図5） 二条家の家紋である二条藤を装飾した瓦が天明大火の廃棄土坑から出土し



図5 二条家家紋瓦

しました。同様の瓦は調査地西方でも発掘調査からも出土しています。留蓋用の瓦で、瓦屋根において一際目立つ部分の飾りに家紋瓦が使われていたことがうかがえます。その他二条家に直接関係する遺物として二条藤を文様にあらわした肥前磁器の碗があります。特注品の可能性が考えられます。

土師器皿（図6） 様々な遺構から、多くの土師器皿（素焼きの皿）が出土しました。江戸時代中期以降、町屋での出土はほとんど

みられなくなるのですが、今回の調査で後期にいたっても多数出土しました。このことは、二条家が古代以来の伝統的生活様式を保持していたことを物語っています。

土人形 (図7) 大半が伏見人形と呼ばれる玩具類と考えられます。信仰物・縁起物、教訓・説話物、動物などの様々な意図で作られたと考えられています。今回の調査でも多数出土していて、伏見人形



図6 土師器皿

が江戸時代の公家社会にも嗜好されていたことがわかります。その他にも箱庭道具・泥面子・碁石などの玩具が出土しています。

おわりに

現在、これらの発掘調査成果を学術的にまとめるべく報告書の作成作業を鋭意進めています。発掘現場には現地説明会や授業利用等含め七〇〇名以上の多くの見学



図7 土人形

者が訪れて生の歴史の醍醐味を味わってくれたものと思います。今後は出土した遺物を中心に歴史資料館(京田辺校地)や寒梅館(今出川校地)の展示施設等を利用しながら、さらに多くの方々に公開するべく様々な活動を行っていこうと思っています。

(同志社大学歴史資料館

浜中 邦弘)

ぼたん鍋と
京料理

畑か

京・上御霊前烏丸西
☎〇七五・四四・〇六〇(代)

先祖

お気軽に
ご相談下さい!! / 賃貸・売買から建築・リフォームまで。

ERA
MAXIMUM GROUP

株式会社 ハウズ

0120-4970-26

〒606-0864
京都市左京区下鴨高木町6
TEL.075-706-1715 FAX.075-706-1714
URL:http://www.erahowse.com

歴史文字シリーズ

伝 達 浪 漫

『ハゲタカの碑』一権力のしるしとして、手にして敵を屈服させると記されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御霊前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp

平成19年11月25日「上京区民ふれあい史蹟ウォーキング」が秋深まる好天の中、開催されました。

今回は、上京区散策マップ「上京を歩く」の「京都御所周辺を歩く」コースをもとに、梨木神社をスタートし、京都御苑内建礼門、平安女学院、旧陣電話局、堀川第橋を経由して、白峯神宮までの約3キロを歩きました。

史蹟の説明を受けながら、紅葉の中、心地よいウォーキングを楽しむことができました。



上京区イベント

上京区民ふれあい文化大学

多様な文化への関心を高めることを目的に、「上京区民ふれあい文化大学」が平成19年11月15日、ホテルビノ京都堀川で開かれました。

今回は、国際的に活躍されている演奏家、葉衛陽氏(中国琵琶)と張連生氏(二胡)をお招きし、中国の伝統楽器のゆったりとした調べに浸りました。

演奏の合間に、楽器の由来や構造などのお話を聞き、最後は「川の流れるように」を参加者全員で合唱しました。



上京区民ふれあいまつり 2007

「上京区民ふれあいまつり2007」が、平成19年10月27日に、京都市立北総合支援学校(上京区堀川通寺之内上る西側)にて開催されました。

あいにくの雨模様でしたが、各学区・団体による模擬店や遊びコーナーは多くの区民でにぎわいました。また、特設ステージでは、御霊神社太鼓の会による和太鼓演奏や、同志社大学の学生によるアカペラコンサート、お笑いライブなどが行われ、子どもからお年寄りまで、幅広い区民がふれあう楽しい一日となりました。



上京区一人権月間—講演のつどい

12月の人権月間にあわせて、平成19年12月6日、同志社大学寒梅館ハーディーホールにおいて人権講演会が開催されました。

今回は、講師に京都市出身でタレントの原田伸郎氏をお招きし、「つながりと感動」〜ありのままに生きようとしたありはありのまゝ〜というテーマで、歌や詩の朗読を交えた講演を行っていただきました。伸郎さんのユーモラスな語り、たくさん笑いの声があふれる講演会となりました。



みんなで 花を咲かそう活動

平成19年11月から、上京区役所庁舎玄関前に花を咲かせる取り組みを始めました。ボランティアの皆さんが熱心に手入れを行い、玄関前が美しく飾られています。

来庁者や道行く人々が、花や緑を通して自然に親しみ、環境問題について思いを巡らす良い機会となるようにとの願いが込められています。

この活動の一環として、3月12日(水)午後2時から上京区役所2階大会議室にて『園芸講演会』を開催します。講演のテーマは「花や緑を活かして人にやさしい環境をつくろう」(予定)です。市民しんぶん上京区版2月15日号にて受講者(先着30名、無料)を募集します。どなたでも御参加いただけますので、園芸や環境に興味をお持ちの方の御参加をお待ちしています。



上京区
イベント

上京薪能

平成19年9月21日に白峯神宮にて第43回「上京薪能」が開催されました。

第一部では、各社中による舞獅子、仕舞、琴演奏が行われ、火入れ式に始まる第二部では、いちひめ雅楽会舞楽「萬歳楽」、宮城社・麻ノ会 琴「昭和松竹梅」、観世流舞囃子「高砂」、金剛流仕舞「野守」、大藏流狂言「土筆」、観世流能「清経」等が演じられました。かがり火が揺らめく中、幻想的な世界が繰り広げられ、伝統芸能を十分に堪能することができました。



上京茶会

平成19年11月4日、毎秋恒例の「上京茶会」が晴天の下、開催されました。

会場となった光照院門跡は門跡尼院で、常磐御所とも呼ばれています。懸釜は裏千家で、着物姿の来場者も多く見られました。寺院の落ち着いた佇まいの中でいただくお茶は豊かな味わいで、穏やかな秋の一日を過ごすことができました。



宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

あじわい ¥5,000 (税サ込)



ホテル ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160 <http://www.rubino.gr.jp/>



名物うどん
南禅寺 **うどん** JUNSEI
左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>

酢一筋の商い、伝統の滋味。

きのう 伝統から きた

京・西陣 孝太郎の酢

(有) 林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455

TEL (075) 451-2071

FAX (075) 451-8028



花にまつわるエピソード...

FLORAL OFFICE
花工房

季節も添えて演出します。

心のこもった贈り物 Flower Gift
～花束～

アレンジメント
グリーンバスケット
スタンド花 etc. ～

フラワーアレンジメント教室 開催中!

本 店 京都市上京区烏丸通今出川下ル tel 075-414-8700
fax 075-414-7787

フリーダイヤル 0120-46-8700

西院店 京都市右京区西院東浄和町 1-1 tel&fax 075-323-1387

長岡店 長岡京市 1 丁目セブン通り tel&fax 075-957-0187

大津店 大津市萱野浦口ロイヤルオークホテル内 tel&fax 077-545-5587

本店2FにてCafeも営業しております。 <http://www.hanakobo.co.jp>



創立以来七十余年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気包まれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/

京銘茶
雲
龍



創業文政五年 宮内庁京都御所御用



京菓子司

俵屋古宙

本 店 京都・室町上立売 電 話 (432) 2 2 1 1 代

烏丸店 京都・烏丸上立売 電 話 (432) 3 1 0 1 代

安全真話

安心のために。伝えたいのは「真実の話」です。



サン・クロレラAは日本製法特許No.3143636、
米国製法特許No.5330913を取得しています。

食品の安全性に対する「神話」が崩れだしている現在…。消費者の皆様が目が厳しくなる中で、私たちはあえて伝えたいことがあります。創業以来、品質にこだわり続けたサン・クロレラは「安全」に対する厳しさを知っているということ。その結晶のひとつが「サン・クロレラA」。すべてを自社責任のもとに開発から製造まで管理し、GMP認定工場*で厳重な検査のもとに生産しています。さらにお届けに関しても自社グループにより直接お客様のお手元へ。製品の正しいご理解と安心してご利用いただくためのアフターフォローも行っています。おかげさまで30年以上にわたってご愛顧いただき、お客様は日本だけでなく世界の国々へと広がっています。もし品質にわずかな不安でもあれば、これほど長い間にわたり愛され続けることはなかったでしょう。安全のために努力を惜しまないという「真実」。これこそがお客様の求める「安全真話」に込められる理由です。

※財団日本健康・栄養食品協会のGMP基準に合格した認定工場。



サン・クロレラAは日健栄協に認定されています。

財団法人日本健康・栄養食品協会の認定マークは、品目別規格基準に基づき、協会の厳正な審査をパスした製品に対してのみその表示が許可されたものです。

サン・クロレラAの製造工場はISO9001の認証を取得しています。